

丸森町の河川災害復旧事業で、仙台東部改良土センター

（仙台市宮城野区、渡辺慶明社長）が建設発生土の有効活用に手腕を發揮している。災害復旧では河道掘削で発生した建設発生土

をほぼ全てを築堤工事の盛土材に活用する。決められた配合で山砂と混ぜる改良土

施工の大半を担う。ほぼ全ての工事現場に提供し、早期復旧と安全安心なまちづくりに貢献する。

丸森町では、東日本台風の大雨で山から流れた土砂で河川が埋まり、内川・五福谷川・新川の堤防18カ所が決壊。流域の約244haが浸水した。災害復旧事業では治水安全度を10年に1度の雨（10分の1相当）から30年に1度の雨（30分の1相当）に向上させるための河道掘削、計画規模を超える洪水が発生した際、堤防が決壊する時間を引き延ばすための堤防断面拡大工法による築堤工事と、これに伴う樋門や堰・橋梁の改

丸森の復旧事業支える

仙台東部改良土センター

築を実施している。

築堤工事では、河道の掘削で発生した建設発生土を盛土材に活用している。発注者の東北地方整備局宮城南部復興事務所は、築堤材

として改良土を使用する設計書で工事を発注。建設発

生土は全量活用を見込む。河道掘削は橋梁など構造物のある区間を除き23年12月、おおむねが完了。掘削量は約50万m³を見込む。建設発生土、購入土の山砂は町内10カ所あるヤードに高く盛られている。同社

は昨春秋、工事の本格化に合わせて改良機を増台。ピーク時は最大5台を稼働させ築堤工事で使用する改良土の大半を担う。改良土は

自走式土質改良機による現場施工で建設発生土と山砂1対1の割合で混ぜ合わせ

不法投棄などの問題の解消にもつながる。

「建設発生土を活用すれば最終処分量を削減できる。」

建設発生土改良に手腕

る。

花こう岩が多い丸森町の

河川では石が劣化した砂が

混ざる。砂石を振るい分け

改良土の基準となる150

mm以下にして使用する。改

良機には仕切り板を取り付

け、ムラなく混合し高品質

の改良土に仕上げる。1台

で1日当たり300〜350

m³生産し、23年度の築堤

工事に約18万m³を提供する

見込み。

建設発生土は、産業廃棄

物として処分せず資源として活用するよう全国で取り

組みが強化されている。

渡辺社長は

「建設発生土

を活用すれば

最終処分量を

削減できる。

不法投棄など

の問題の解消

にもつながる。

丸森町では受発注者が一丸

で早期復旧に取り組んでいる。

土の有効活用で住民が

安全で安心して住み続けら

れるまちづくりに貢献した

い」と話す。

ダンプロックのシミュ

レーションをもとに運行ル

ートや運搬する土量を管理

し、必要な現場に提供する。

河川工事の指揮を執る田

中大輔建設監督官は「町民

の理解が不可欠のため、受

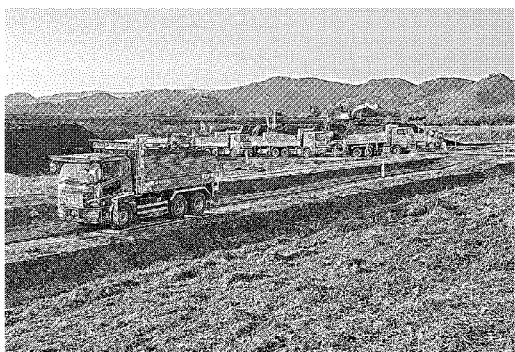
発注者や下請け事業者が

一丸となってアイデアを出し合っている」と話す。

シミュレーションの結果通り、2月下旬ごろまでピークが続く見通し。



フル稼働させる自走式土質改良機。厳しい基準で配合が求められる改良土を生産する



ストックヤードから改良土を現場に運ぶダンプロック